あさひ台

学　校　報
第　５２９　号
Ｒ６．１０．２５
五城目小学校

学校教育目標	夢高く　心たくましく　学び合う五小の子 ～　つなぐ　ひらく　つくる　～

子どもの力で地域に元気を

９月のある日、ある町内の防災訓練の帰りだという町の職員の方が、私の家を訪ねてきました。訓練で地域の方が話してくれたことを、私に伝えに来たというのです。それはこんな話でした。

その地域の方は、昨年７月の大雨で大きな被害を受け、気持ちが落ち込んだままの生活が続いていたそうです。そんなとき、五城目小学校の子どもが、元気よくあいさつをしてくれたのだそうです。その方はとてもうれしく、それから元気を取り戻して、前のように暮らすことができたそうです。その時、その子どもは、「こんなときは自分たちの元気な声が、町民のみなさんを元気にするって、先生が言ってたよ。」と話してくれたのだそうです。

その話を聞いて、担任の話をよく聞いて行動してくれた五小っ子を、とても誇らしく思いました。と同時に、町の人を元気にする子どもたちの力に驚かされました。

勇気をもって教えを行動にうつした五小っ子。そのことに、１年以上感謝の思いを持ち続けそれを伝えてくれた地域の方。その思いを受け止めて喜んで私に伝えてくれた町の職員。私もその話を聞いて、涙が出るほどうれしく思いました。一つの行動が、このようにたくさんの人を幸せな気持ちにしてくれたのです。

「みんなでウォークラリー」でも、「子どもと話をすることで、元気をもらった。」という声や、「人通りが少なくなった小路に子どもの姿があってうれしかった。」という声が、複数学校に届いています。

「みんなでウォークラリー」
地域の方とじゃんけん

学校視察の際、学習状況調査等で五城目小学校の子どもたちの自己有用感が高いのはなぜか、という質問を受けたことがあります。地域との関わりを大切にしている中で、このように地域の方の声が子どもたちに届いていることが、子どもたちの自己有用感を高めているのではないかと考えます。

この週末は学習発表会があります。来月は創立 150 周年記念式典があります。このような場でも、五小っ子が地域の皆様に少しでも元気を届けられることを、そして皆様の笑顔で子どもたちが健やかに成長していくことを願っています。

（校長　島﨑 徳之）